New 新着資料紹介

阪神・淡路大震災の復旧を記録した写真

寄贈者は1995（平成7）年3月20日から27日の8日間、勤める会社の有給休暇を利用してボランティア活動に参加しました。当時、鉄道網が寸断されていたため、東京から電車とバスを乗り継いで神戸市灘区を拠点にしていたボランティア団体「神戸元気村」に合流。倉庫係として、支援物資の受け取りと配布を担当しました。今回寄贈いただいたのは、その際に撮影した写真と活動の様子を記録した日記（複写）です。

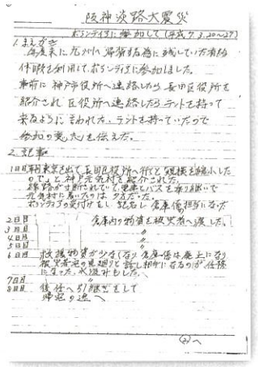
写真には、倒壊した建物やボランティアテントなどが写し出されており、裏面にコメントが添えられているものもあります。これらの写真は、被災地の状況を視覚的に伝える重要な情報源です。また、コメントが付いている写真からは、被写体についての詳細情報や撮影者の思いなどが読み取れます。

日記には、ボランティアに参加した経緯や日々の活動内容などが記載されています。当時、寝る場所がなかったため、初日は持参したテントを公園に張り、2日目からは倉庫内に毛布を敷いて寝ていたなど、当時の被災地での苦労が記録されています。

寄贈者の勤め先には、ボランティア休暇はありませんでしたが、活動についての記事が社内報に掲載されてから、新設されることになりました。

資料番号：559-001001.001.0025

資料番号：559-001001.001.0004



阪神淡路大震災

資料番号：559-001002

震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいんかな？」と、おっしゃる方もなかにはいらっしゃいます。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、震災の出来事を伝えるために活用したいとお考えの方など、悩んだ際には、ぜひ一度、資料室までご相談ください。

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階
TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062
URL https://www.dri.ne.jp/

開室時間 9:30～17:30
閉室日 毎週月曜日（月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日）
12月29日から1月3日

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
DRI
The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institution

資料室ニュース

Vol.81
2023年7月発行

震災資料のメッセージ 2023（前期）

ビデオがつなぐ、被災の記録

資料番号: 259-001001ほか

1995年に発生した阪神・淡路大震災では、テレビが連日、現場の様子を報道しましたが、被災地の人々も自らビデオカメラを手に取り、近隣の被災状況を映像で記録していました。人々の見た震災の風景、撮影者の視線や行動が刻まれたビデオテープはいま、旧式化によって世の中から消えつつあります。震災資料のメッセージ2023（前期）では、震災当時の家庭用ビデオ機器に加え、撮影・再生機器の変遷とともに失われゆく記録を継承するため、資料室が継続的に行ってきた「メディア変換」の作業についてもあわせて紹介します。

開催期間 2023年 8/1（火） ～ 2024年1/28（日）

展示場所 人と防災未来センター 西館3階（有料ゾーン）

夏休み防災図書コーナー

7月15日（土）から9月10日（日）まで「夏休み防災図書コーナー」を実施します。阪神・淡路大震災や東日本大震災など、災害や防災に関する児童書を期間限定で貸し出すと同時に、読書感想文作成ブースも開放予定です。夏休みの読書感想文は人と防災未来センターで防災について書いてみましょう！

1　開催期間

2023年7月15日（土）～9月10日（日）
資料室開室時間：9時30分～17時30分

2　定員

読書感想文作成ブースの利用　6席
※室内の混雑状況によってはご利用までお待ちいただく場合がございます。

3　図書貸出し

対象：小学生・中学生
冊数：1人1回2冊まで（4週間）
※初回利用時は生徒手帳などの連絡先がわかるものをご持参ください。

震災資料専門員のおすすめの図書

『ゆず先生は忘れない』（白矢三恵著）

学校でいちばん人気のある、優しく元気な「ゆず先生」。ある日、児童のひとりが避難訓練でふざけたことをきっかけに、ゆず先生は20年前にその地域で起こった地震の体験を話し始めました。先生の話を一生懸命に聞く子どもたち。子どもたちの災害に対する考え方はどのように変わっていくのでしょうか。

神戸市長田区出身の著者の体験から生まれたお話です。

『青い空がつながった』（毛利 まさみち著）

宮城県石巻市で東日本大震災に遭い、家族で広島市に引っ越した小学生の麻美ちゃん。それから一年、麻美ちゃんは公園で捨てられていた子犬をひろいました。もらってくれる人が見つかるまで家で飼うことになりましたが、ある日、子犬の飼い主だという少年に出会います。

この物語は、東日本大震災の二ヵ月後に宮城県石巻市から、著者の住んでいる町に引っ越してきた麻美ちゃん（仮名）とそのご家族を取材し、創作した話を加えて構成したものです。

他にもたくさんの図書を用意していますので、ぜひご来室ください。

関東大震災の発生から、今年で100年

1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災から今年で100年が経ちます。

当センターは阪神・淡路大震災で被災したものや、当時使われていたものなどを収集し、保存していますが、それらと一緒に関東大震災の資料が寄贈された例もありました。その中から、東京市（当時）の火災の様子を伝える資料を一部紹介します。

関東大震災の様子が描かれた自叙伝や手紙

寄贈者の両親は関東大震災の当時、東京市の陸軍被服廠（ひふくしょう）跡（現在の東京都墨田区）の近くに住んでいました。関東大震災では、この被服廠跡だけで、約3万8千人が亡くなったと言われています。寄贈者の父が避難していた被服廠跡の広場は、家財道具などを持った避難者によって過密になっていきました。その後発生した大旋風で寄贈者の父は空高く吹き飛ばされ、大木の枝に帯が引っ掛かり、失神していたと記録されています。

（左）資料番号：57-001001
（右）資料番号：57-001005

寄贈者の母は、昼食の用意をしようとしていたときに被災。2歳の次女を抱えながらの避難中に、強風に飛ばされ、娘の手を離してしまいます。娘のもとへ向かおうとするも群衆に押し流されたことなど、当時の様子が詳細に描かれた自叙伝です。

資料番号：57-001004
資料名称：忘れな草　自叙伝と短歌集　第三集

寄贈者の父は、火災旋風の原因が偶発的な気象現象とされたことに納得できず、自身が見聞きした情報を研究者等へ提供し続けました。それが約50年後、当時発生した火災旋風の謎の解明につながりました。各方面へ働きかけた当時の記録が残っています。

資料番号：57-001002
資料名称：関東大震災の記録集

他にも、資料室では、関東大震災に関連した二次資料も多く所蔵しています。

また、昨年、当センターが立地するHAT神戸地区で開催された「ぼうさいこくたい」は、今年、関東大震災の被災地である神奈川県横浜市で開催されます。

関東大震災関連のイベントや特設サイトなど、目に触れる機会が多くなってくるはずです。ぜひ調べてみてください。